

## 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：老人福祉費

## 事業名 チームオレンジ・コーディネーター研修等事業費

(地域医療介護総合確保基金(介護分))

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 高齢福祉課 介護保険者係 電話番号：058-272-1111 (内 2598)

E-mail: [c11215@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11215@pref.gifu.lg.jp)

## 1 事業費 238千円(前年度予算額：188千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	188	0	0	0	0	0	188	0	0
要求額	238	0	0	0	0	0	238	0	0
決定額	238	0	0	0	0	0	238	0	0

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨(現状と課題)

認知症の人が安心して暮らし続けられる地域づくりを進めるため、認知症の人と家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組み「チームオレンジ」を、全市町村で整備していくことが必要である。

「オレンジ・チューター養成研修」を受講したチューターを活用しながら、市町村が配置したコーディネーターやチームオレンジのメンバー等に対する研修を実施するなど、チームオレンジの設置や活動を行う市町村を支援することが必要である。

## (2) 事業内容

## チームオレンジ・コーディネーター研修

- 一定水準以上の知識や支援技術を兼ね備えたオレンジ・チューターを活用しながら、市町村が配置したコーディネーターやチームオレンジのメンバー等に対する研修会を開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

地域医療介護総合確保基金（介護分）国 2/3 県 1/3

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	117	講師報償費
旅費	66	講師旅費、職員旅費
需用費	10	消耗品費
役務費	10	郵送料・電話料
使用料及び 賃借料	35	研修会会場賃借料
合計	238	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「認知症施策推進大綱」の「認知症バリアフリー」の推進 ⑤地域支援体制の強化

「岐阜県高齢者安心計画」 1-2 認知症対策の推進

(2) 国・他県の状況

地域医療介護総合確保基金（介護分）の「地域包括ケア構築のための広域的人材養成」の中の「チームオレンジコーディネーター研修等事業」を活用。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
2025年度までに、全市町村にチームオレンジを整備する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目 標	達成率
チームオレンジを整 備した市町村数	0 (H30)	(R)	(R)	5 (R1)	42 (R7)	11.9%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
- ・「チームオレンジ」構築に向けた研修会を1回開催予定

### （前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
- ・市町村がコーディネーターを配置し、地域において認知症の人等の支援ニーズと認知症サポーター等をつなぐチームオレンジの整備を推進について理解し、各市町村での取組を推進することができる。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</li> </ul>	
(評価)	<p>○</p> <p>今後も認知症患者は増加し続けるが、認知症と診断されても地域の身近な人による支援があれば自立した生活を送れる場合もあり、認知症の人と認知症サポーター等の地域の人をつなぐ体制（チームオレンジ）の構築は必要。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</li> </ul>	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</li> </ul>	
(評価)	

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</li> </ul> <p>認知症と診断されても身近な人のサポートがあれば自立した生活をおくることのできる場合があるため、市町村が主体となり、認知症ステップアップ講座を受講した認知症サポーター等が支援チームを作り、認知症の人とサポーター等をつなげる仕組み（「チームオレンジ」）を構築することが必要である。</p>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</li> </ul> <p>認知症サポーター等を認知症の人につなげる活動行う「チームオレンジ」の取組はまだ市町村において少なく、県内全市町村に設置できるようが積極的に実施できるよう、先駆的に県が事業を実施する。</p>
---

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	【○○課】